

05

Jul. 2015

学芸員課程 Newsletter

Newsletter from Course
for Prospective Museum
Workers, Faculty of Letters,
Okayama University

編集・発行: 岡山大学文学部学芸員課程 (編集 光本 順)
発行日: 2015年7月24日
文学部学芸員課程 Web Site
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/pmw>

contents

特集 社会とつながる - 人文系博物館実習 -	
光本 順	1・2
NEWS & TOPICS 洞出 文美	2
学生コラム・イベント参加記	
能勢 基希	3
学生コラム・思い出のミュージアム	
脇田 和樹	3
先輩学芸員にきこう!	
- 八代市立博物館未来の森ミュージアム	
鳥津 亮二さん	4

学芸員課程における学びの特色のひとつは、社会との接点の中で実践的に学ぶ機会が、教育プログラムのなかに確かに位置付けられている点にあります。特に「博物館実習」は、博物館資料の取り扱いを修得する場であるだけでなく、実社会の組織や人に触れる場でもあります。各種博物館の見学実習や現役学芸員の方を招いた特別レクチャー、5日間以上にわたって各自が博物館において学ぶ館園実習などはその代表例

であり、学生にとって社会とつながる貴重な機会となっています。例えば館園実習の事後指導では、「博物館が多くの人々のかかわりによって成り立つことを実感」する学生が多く存在することも、その一端を物語るものといえるでしょう。今号は、文学部・教育学部の学生が参加する人文系博物館実習の活動について紹介します。

特集

社会とつながる

〜人文系博物館実習〜

写真(上) 公益財団法人大原美術館の柳沢秀行学芸課長による特別レクチャー(文学部講義棟にて)。美術館の意義を現代社会の中で問いつける大原美術館のミッションの力強さ。



写真(下) 岡山市立オリент美術館での見学実習。最新の照明設備と現役学芸員ならではの展示へのこだわりを知る。



人文系博物館実習

特集

人文系博物館実習のカリキュラム

博物館実習（3単位）は、主に以下のパートで構成されています。

見学実習

さまざまな博物館の見学を通じて、博物館の実際を実感。教員が引率する見学（岡山県立博物館、岡山県立美術館、岡山市立オリエント美術館、林原美術館、倉敷市立自然史博物館）と、自由見学（国立系を中心とする全国各地の博物館）で構成。前者では、普段目にするものがないバックヤードなども見学できる場合もあります。見学後は、レポートで気づきや考えをまとめます。

実務実習

博物館活動の根幹にある博物館資料。考古資料や歴史資料（掛軸等含む）の取り扱い、梱包方法、整理・保存、調査研究について、大学所蔵資料を用いながら学びます。また夏季には本学埋蔵文化財調査研究センターと連携した、文化財の収集から始まる活動を体験します。

展示実習

展示は博物館と社会を結ぶ代表的活動。学内にてミニ展覧会を学生が企画・作成・運営します。グループワークを通して共同でつくりあげます。

館園実習

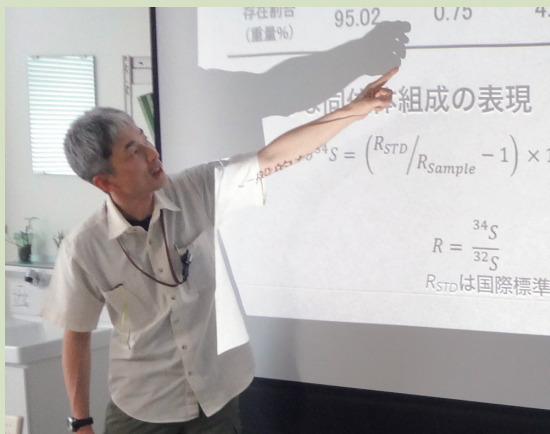
岡山県内を中心とする博物館に5日間以上の日程で実習生を受け入れていただく、現場で実践的に学ぶ実習。当文学部学芸員課程では、博物館の多大なご厚意・ご支援のもと、連携しながら実習を進めています。また学生には、帰省先の博物館における実習を自ら確保するという選択肢もあります。

平成26年度 館園実習先一覧 人数は参加学生数 (岡山県内・公立)

岡山県立博物館	5名
岡山県立美術館	3名
岡山市立オリエント美術館	3名
岡山シティミュージアム	10名
津山郷土博物館	2名
(岡山県内・私立)	
公益財団法人 大原美術館	7名
一般財団法人 林原美術館	1名
(岡山県外)	
高岡市立博物館	1名

NEWS & TOPICS

第5回学芸員課程ランチタイム企画 「トーク・ミュージアム」を開催



トーク風景（山中寿朗先生）

平成27年7月1日、文学部学芸員課程ミュージアム教育実習室において、第5回トーク・ミュージアムが開催されました。今回は、理学部から地球惑星化学分野の山中寿朗先生に来ていただき、「文化財と自然科学の間を埋める」というタイトルでお話をいただきました。地球化学とは、「化学分析」を通じて興味の対象を研究する分野です。今回は「火薬」に着目し、そこに含まれる硫黄を分析することで、その年代や産地を特定するという研究についてのお話でした。それは、考古資料や文化財として各地に残された資料を調べ、文献資料だけではわからない「物」が語る歴史の真実を、新たなアプローチでも解いていくものでした。一方、化学分析における資料破壊の問題や、このような史学と地球化学の連携が海外では進んでいる、日本においてはまだまだ十分ではないなど、様々な課題もあるとのことでした。また、研究成果を積極的に海外へ発信することが必要であると述べられていました。

今回のお話を通して、博物館における人文系と自然史系との連携の重要性も改めて考える必要があったと感じました。また、当日の参加者はほとんどが文学部の学生や教員であり、私自身も自然科学系の話題は非常に新鮮で少し難しい部分もありましたが、実際の研究成果や分析に用いる装置の写真などを示しながらのお話は、とても興味をひかれるもので、貴重なひと時を過ごすことができました。

（文学部言語科学専修コース 洞出 文美）

学芸員課程学生企画

イベント参加記

チルドレンズ・アート・ミュージアム (大原美術館)

私は小さいころから自然科学が好きで、実家の近くにある科学館や動物園、植物園によく通っていました。しかし、岡山に来てからというもの、そういったところに行くことがめっきり減ってしまい、特に人文系博物館や美術館などは全く縁がありませんでした。そんな私が初めて関わったのが大原美術館のチルドレンズ・アート・ミュージアムでした。

きっかけは大学で岡山大学ダンス部に入学したことです。その部活では毎年夏に大原美術館で行われるチルドレンズ・アート・ミュージアムに参加していて「野外彫刻とあそぼう!」というダンスワークショップのアシスタントをしていました。ダンス部のOB・OG、美術館職員の方々をはじめとし、他のワー

クショップのアシスタントや私たちのワークショップを受けにくる子ども達とその保護者の方々など、とても多くの方と交流することが出来ました。また、美術・芸術作品展などをこのイベントによって見て回ることができました。

私は今まで美術館や博物館といったものは物静かで堅いイメージがあったのですが、このイベントに携わっている方や参加者との明るく楽しい交流をきっかけとして、そういうイメージが払拭されました。学芸員という職業に興味を持ち始めたのもこの頃で、このチルドレンズ・アート・ミュージアムというイベントに参加しなければ、私自身が学芸員を目指すという事は無かったと思います。

私は自然科学系を専攻していますが、今では美術館や人文系博物館に足を運ぶことが増えました。

(理学部生物学科 能勢 基希)

コラム

思い出のミュージアム

ロンドン自然史博物館

私は、高校の修学旅行でイギリスのロンドン自然史博物館を見学する機会がありました。当時、博物館にあまり興味を持っていなかった私は、どのような展示物があるのかなどといった情報をほとんど仕入れることなく向かったのですが、到着するなりその外観の荘厳さに面喰ったことを覚えています。まるで博物館そのものが展示物のような美しさをしていたことが、非常に印象的でした。

中に入ってみると、見上げるほど大きな恐竜の骨格が出迎えています。たとえ恐竜にまったく興味のない人であっても、あの巨大な骨格には感嘆の声を上げるのではないかと思います。少なくとも私にとっては、恐竜の持つパワフルな一面を十分に伝えてくれるだけのインパクトを持った展示でした。

博物館内部には、恐竜だけではなく様々な古生物の展示物がいくつかのエリアに分けられながら展示されていました。これまでほとんど接することのなかった世界に足を踏み入れているという感覚が、と

ても新鮮で心地の良いものでした。

博物館に実際に行ってみることで得られるのは、展示物の持つ学術的な価値を知ることだけではありません。自分の興味のある分野、あるいは、ほとんど未知の分野の展示物が並べられた非日常の空間が、自分の中の知的好奇心をすごい勢いで刺激してくれる。ロンドン自然史博物館は、そんな衝撃を与えてくれた思い出のミュージアムです。

(文学部言語科学専修コース 脇田 和樹)



岡山大学出身の学芸員の先輩が、博物館概論受講生の疑問を解決。
3回目となる今回は日本史学分野の鳥津亮二先輩にこたえていただきました。

略歴

1977年 兵庫県神戸市生まれ
2000年 岡山大学文学部歴史文化学科卒業
2002年 岡山大学大学院文学研究科修了(日本史学)
同年より八代市立博物館に学芸員として勤務
専門は日本文化史・古文書学。著書『小西行長』で第32回熊日出版文化賞受賞(2011年)。
文部科学省より博物館法施行60周年特別奨励賞受賞(2011年)



1. 学生時代と学芸員を志したきっかけ

なぜ学芸員になろうと考えましたか。何かきっかけはありましたか。

学部2年生の時に訪れたスミソニアン博物館群の充実ぶりに衝撃を受け、それを機に日本の博物館のあり方に関心を持ち始め、やがて学芸員を目指すようになりました。

どのような経緯で熊本の博物館で勤めるようになったのですか。

採用が少ないのはわかっていたので、学芸員になれればどこでもいい！と腹をくくり、ネットで全国各地の採用試験情報を探して、たくさん試験を受けました。なかなかうまくいかず苦戦しましたが、幸い合格できたのが今の職場です。

公立博物館の学芸員採用試験はどういったものになりますか。

公立の場合、一次で一般教養と専門試験、二次で面接や集団討論・小論文というのが一般的です。専門試験・面接以外は、通常の公務員試験と同内容であることが多いので、その対策も必要となります。

学部や大学院で専攻された日本史の研究がどのように現在の職務にいかされていますか。

学部・大学院でのご指導を通じて、①先行研究を学び、②自分で史料を解釈・分析し、③自説を立てて論文にする、という一連の「研究方法」を学ばせていただいたことが、何より現在の基礎となっています。また、先生方にはホンモノの古文書に触れる機会をたくさんいただき、学生時代から解説と「取り扱い」の訓練をしていたことも大変役立っています。

学芸員になるためには大学院へ進学するべきですか。

本気で学芸員を目指すのであれば、大学院に進学し、高い専門性を習得するのがいいでしょう。それは採用試験対策だけでなく、実際に働く上でも、そこで得た見識が必ず役に立つからです。

学芸員になるために学生が授業以外でできることはありますか。

学芸員の必須技術の一つに写真撮影があります。これは調査・図録編集・広報など、あらゆる業務に必要なスキルですので、学生の頃からカメラ(一眼レフ)に慣れ親しんでおいてください。また、時間があれば、何度も博物館・美術館に出向いて、たくさん「ホンモノ」を観ること。これが学芸員に必要な「眼」を養う、何よりの訓練です。

大学で日本史を専攻されていますが、それ以外の専門分野の知識も仕事の上で必要になるのでしょうか。

私は大学で日本史(特に古代史)を研究していましたが、実際の仕事では美術・民俗・考古学・文学など、様々なジャンルの資料も取り扱う必要があります。今も毎日勉強中です。専門分野を深く学ぶことも大事ですが、学芸員を志すのであれば、わざと「専門外」の本を読むなどして、学生時代から幅広い知識・視野の習得を心がけることも重要です。

2. 学芸員の仕事の実態

学芸員の仕事で他と異なる特色はありますか。

学芸員の仕事の独自性は「ホンモノ」を取り扱うプロだということです。ですので、どのような分野であれ、学芸員になるためには「ホ

ンモノ」に関する専門知識と「眼」、そして取り扱い技術の習得が不可欠です。

学芸員の仕事にもっともやりがいを感じるのはいつですか。

一番は、自分が作った展示でお客様に喜んでいただいたとき。「ホンモノ」とお客様をいかにうまく繋ぐことが出来るか、それを追求・実現するのが何よりのやりがい。お客様に「おもしろかった」と言っていたのが何よりの喜びです。

一日の主な業務内容について教えてください

学芸員といっても毎日資料に触れているわけではなく、市役所関係の書類作成や予算管理などの事務仕事もたくさんあり、苦労は絶えません。しかし、これも博物館を担う学芸員として大事な仕事です。

学芸員と研究者の違いはあるのでしょうか。

僕も就職する前は、学芸員を研究者というイメージで捉えていました。しかし今では、研究者としての側面はもちろん、教育者・プロデューサー・クリエイター・技術者・事務職員、これらすべての要素を兼ね備えた職種と考えています。

博物館で資料に関するどのような調査・研究に携わってききましたか。

館内の資料はもちろん、地域の寺社や個人の所蔵品も調査しています。対象資料は必ずしも自分の専門分野の資料とは限りませんので、いろんな専門の学芸員が合同で調査にあたることもよくあります。

展示テーマを決定する際、自分の関心を意識しますか。それとも社会の関心や流行を意識しますか。

「自分」「社会」の両方を意識します。展示はただ単に自分の興味のあるモノを並べるだけではなく、必ず現代社会とのつながりをコンセプトとして示す必要があります。それが学芸員の使命ですし、展示も研究も同じことです。

展覧会を企画・担当する上で、どのようなことが一番大変でしたか。

最も大変なのは、他の所蔵先からお借りする資料の取り扱いです。時には100点以上にもなる資料を、お借りしてから展示し、返却するまで、破損や劣化がないように取り扱わないといけませんので、とても気をつかいます。

博物館活動によって、人々にどのようなことを伝えたいですか。

現代社会を生きるヒントとして、私たちは過去の人々の営みを学ぶ必要があります。その証拠となるのが、あらゆるホンモノ資料です。そのかけがえのない価値と魅力を紹介することで、歴史を知る大切さと面白さをお伝えしたいと思っています。

学芸員に求められる力とは何ですか。

「ホンモノ」に関する専門知識や取り扱い技術は、一朝一夕に身に付くものではありません。学芸員として働き続けるためには、あくなき探究心と忍耐力、そして熱意が必要。生涯勉強です。

3. メッセージ ー学生のみなさんへー

学芸員は、自分の学んだことを活かして社会に貢献できる、やりがいのある仕事です。就職状況は厳しいですが、熱意を持って岡山大学で学び続けられれば、必ず学芸員になる道は拓かれます。頑張ってください！